

北陸石仏の会々報

南無仏の祭り

尾田 武雄

富山県南砺市の真宗大谷派井波別院瑞泉寺では七月二十一日から二十九日まで、寺宝の虫干しを兼ねて、太子像の開扉と太子伝会八幅の絵解きが行なわれる、「太子伝会」が開催される。ちょうど梅雨明け時分にあたり、また田んぼの草取りがひと段落した時期で、お東騒動以前は、サーカスや見世物小屋が出て多くの参詣者があった。最近はこちらと寂しいかぎりであるが、近年は「井波太子伝絵解きフォーラム」が開催され、同時に週末には別院内外で、木やり待ち流しなど「いなみ太子伝観光祭」が行われている。

瑞泉寺は明治十二年に失火により、本堂、太子堂、庫裏などを焼失した。本山からの借財などで、十八年には本堂が完成した。しかし太子堂の建設、本山への返済など窮乏していた。二十三年頃から、冬などの農閑期に太子像や宝物の巡回を各地に行い浄財の募金活動が行われた。その結果太子堂は大正七年に完成した。この完成までの約三十年間に、巡回先を中心に、瑞泉寺太子堂に安置される南無仏が各地に造像された。私の調査では現在二百七十三体を確認している。これも約三十年の間の造像であり、驚くべき瑞泉寺への信仰心である。

令和元年七月二十二日午後三時より砺波市新屋敷太子堂また午後六時より同市木下で太子堂のお祭りがあった。東本願寺教学研究部所員見晃所員ら四人

がお祭りの調査を行われた。令和三年に聖徳太子千四百年忌の向けての、地方の太子信仰の調査をされている。(後で知ったのであるが、砺波市狐島の太子堂もこの日お祭りをされていた)
野にある南無仏のほとんどは石仏であるが、この二か所は共に珍しく木像であり、神社の入り口にある。安芸門徒の「神棚降し」とは若干異質な真宗門徒の信仰の有りようである。

第58号

令和元年8月20日発行

編集と発行

北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 平井一雄

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・南無仏の祭り
- ・「神通川稀有氾濫」碑
- ・越知山別山神社の石塔
- ・第58回例会報告
- ・研究紀要12号の御案内
- ・第59回例会案内



砺波市新屋敷の南無仏



砺波市新屋敷の太子堂



砺波市木下の南無仏



砺波市木下の太子堂

「神通川稀有氾濫」碑と往還山回向寺

平井 一雄

富山市上大久保六区の天満宮立石参道に入り一の鳥居をくぐる。防火用水（暗渠）・防火道路に面して西側に上大久保六区公民館と石碑三基が建てられた広場がある。ここは平成十二年に廃寺となった往還山回向寺があった場所である。私の子供の時、この寺を親達が「いっこっさん」と呼んでいたことを覚えている。

1、「回向寺」

大久保町郷土誌によると往還山回向寺は天正十年の創建にして開基は玄順といい、その租は平氏であると伝えられる。五箇山赤尾谷に住した。

寛文九年八代教順の時、富山梅沢町に転住、火難に会い十代教忍の時月岡野今町に移り、宝暦十一年浄見が塩野字往還野といわれた当地に移転した。

元東派に属していたが十五代教了の時、安政二年本願寺派に転派した。平成十二年に廃寺となる。

2、石碑

向かって左、自然石の石碑は高さ84cm、幅40cmである。上部に右横書きで「表彰記念」、縦書き二列で「大正九年六月廿九日」「神通川稀有氾濫」「大久保消防組第二部」と刻されている。

富山県史年表で大正九年の災害を調べて見たが記載がなく、よく知られている大正三年大水害の救助行動を大正九年に表彰したものかと思っていた。

ところが平成十七年発行の大沢野町史編纂のための絵馬調査で大久保八幡宮拝殿に入って拝見していたとき絵馬とともに写真の奉納額が目に入った。

記載は

「賞状」

大久保消防組

大正九年六月二拾八日神通川稀有の氾濫に際し大久保分署長の命により各部挙りて

新保村方面水害警防の任に當り成子橋その他各所堤防の防禦及羅災者の救護等各員

の行動敏活勇敢にして克く消防組の任務を全うし功勞甚大なり仍て金壹封を贈り之を賞す。

大正九年七月十二日

富山県消防議会議長

右賞状記念 奉納之

組頭 高見甚之助

と墨書してある木製奉納額である。

絵馬でなかったのが町史資料編に記載されなかったが貴重な郷土資料である。

後日「大久保町郷土誌」を開くと、第三節、消防 四、賞状の記事に

「褒賞」

「大正九年の水害に対し大久保消防組は率先現場にかけつけ救護等に尽力し、次の賞状を与えられた。時の組頭は高見甚之助である」

以下奉納額と同文の記載があり、付け加えて 富山県消防議会議長 従四位勳三等

東園基光

の記述がある。

紙の賞状を元に木製奉納額を作り八幡宮に奉納されたのであろう。

この石碑は「稀有氾濫」等防災の願いを永久に住民の記憶に留めるために



往還山回向寺 廢寺前 1981. 5. 27 撮影

石碑として建てられたものであろう。
 また図書館で『新聞で見る二十世紀の富山』北日本新聞社刊を見ていたら大正九年六月二十八日「神通川が出水し富山市・上新川郡で床下浸水860戸、床上浸水791戸、橋梁2箇所流失死者十数人」の記載があった。私は、この石碑により直接、郷土の歴史を学習することができた。



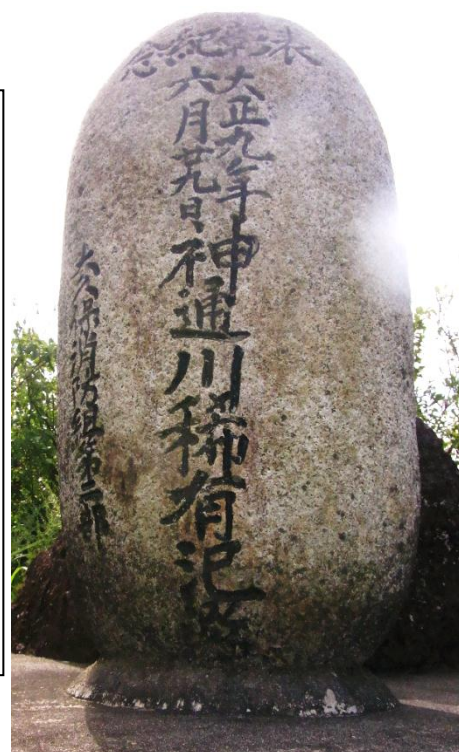
上大久保6区公民館 神通川希有氾濫碑 消防記念碑 聖徳太子孝養像

碑文

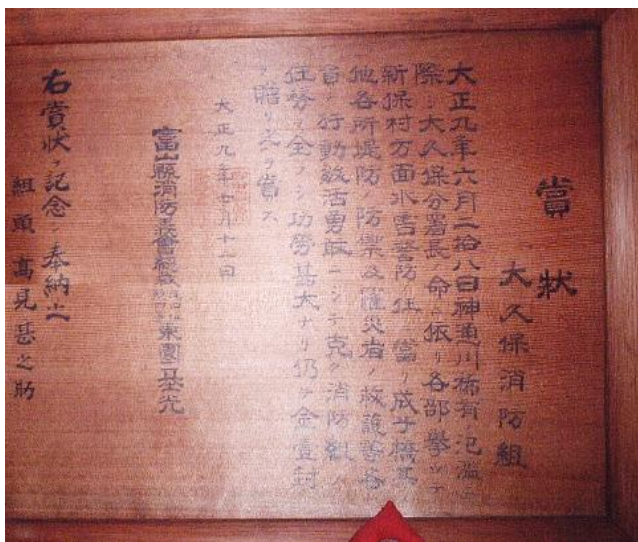
念紀彰表

大正九年
 六月廿九日

神通川稀有氾濫
 大久保消防組第二部



「神通川稀有氾濫」碑



大久保八幡宮拜殿 賞状 奉納額

越知山別山神社の石塔

滝本 やすし

福井県越前町と福井市との境に位置する越知山に、越知神社が建てられている。白山、日野山、文殊山、蔵王山と共に越前五山の一つとされ、泰澄大師が青年時代まで修行したと伝えられる修験場であった。

越知山へ登る道はいくつかあるが、いずれの道も数時間歩いて登らないといけない。福井市尼ヶ谷町からは舗装された道路があり、山頂近くまで登ることができる。

殿池の畔に、「越知神社」と書かれた額が掲げられている木製の鳥居が建てられている。鳥居をくぐり石段を登ると、正面に社務所(旧室堂)が建てられており、その右手に不動明王を祀る日宮神社(旧護摩堂)が併設されている。日宮神社の手前には、地藏、文殊菩薩、不動明王などの石仏が並べられている。

社務所の右から南への坂道を登ると、越知神社の拝殿と本殿が建てられている。本殿には、伊邪那岐大神、伊邪那美大神、大山祇大神、火産霊大神が祭られている。

越知神社拝殿から南への坂道を少し下り、さらに続けて登ってゆくと別山神社の社殿が建てられており、天忍穂耳尊が祭神として祀られている。もとは聖観音が祀られていたが、神仏分離の際に大谷寺へ移された。別山神社の社殿の手前に十基ほどの石塔が建てられている。

社務所前に戻り、北への坂道を登ってゆくと、大師堂が建てられている。大師堂の周囲には、阿弥陀如来、薬師如来、文殊菩薩、普賢菩薩、聖観音、地藏、勢至菩薩など多数の石仏が並べられている。

大師堂の奥に、千体地藏堂が建てられている。堂内には千体の合掌地藏が納められている。

北への道をさらにゆくと、泰澄大師が安置したと伝えられる聖観音が祀ら

れた祠が建てられており、神宝庫とされている。周囲には多数の石仏が並べられている。

さらにこの道を北へと進むと、越知山頂にたどり着く。頂上には奥之院が建てられており、大己貴神が祀られている。社殿の裏手に三等三角点の標識が建てられている。

以上が越知神社周辺の概要であるが、ここでは別山神社の社殿の手前に建てられている石塔群を見ていきたい。

いちばん手前に一基離れている石塔は、正面に「カーンマーン・大峯八大金剛童子／…」、右側面に「キヤ・奉運歩大峯…」、左側面に「バン・大峯三十三度行…」／…大僧…、裏面に「享保■年丁亥…」と刻まれている。享保年間に丁亥の年は存在しないので、造立年を特定できない。

後方に十一基の石塔が建てられているが、上部のみのものと下部のみのものが各三基あり、これらをまとめると石塔の数は八基になる。

一基のみ形態が異なる石塔は、正面に「日吉大明神」、左側面に「献主／三国町大門／上坂茂…」と刻まれている。

他の七基は同じ形態であり、これらの石塔を手前から順に見ていくと、

①正面「○文殊師利菩薩」、右側面「明治戊辰■願庚午■再建」、左側面「越知…運講中■(花押)」

②正面「○白山妙理大権現」、右側面「駒屋…」、左側面「…戊…開運講中再建之」

③正面「○日野山大権現」、右側面「戊辰開運講中再建之」、左側面「願主駒矢…」

④正面「○日吉山王七囀大権現」、右側面「戊辰願■開運講中再建之」、左側面「…」

⑤正面「○竹生嶋辯才因」、右側面「戊辰開運講…」、左側面「願主駒…」

⑥正面「○大峯八大金剛童子」、右側面「戊辰開運講中…」、左側面「願主駒…」

⑦正面「○天照皇太神」、右側面「明治元年戊辰…」、左側面「願主…」



越知神社拝殿前の狛犬



日宮神社(旧護摩堂)前の石仏
不動明王、文殊菩薩、地藏

これら七基の石塔は銘文が完全に判読できるものがないが、各々の断片的な銘文から、駒屋が願主となり明治元年に開運講中によって再建されたものであることがうかがえる。駒屋は足羽郡福井(現福井市)で薬草問屋を営んでいた豪商で、福井市内や白山などに数多くの石塔や石仏を造立している。越知神社の境内には駒屋によって文久元年に造立された宝篋印塔や石碑などもみられる。別山神社手前の石塔が最初に建てられたのはいつ頃なのだろうか。



別山神社手前の石塔群



「○天照皇太神」



「○竹生嶋辯才天」



「○日野山大権現」



「○文殊師利菩薩」

第58回例会「高岡市の石仏めぐり」報告

松井 兵英

新緑の中、田植がほとんど終わった砺波平野から北に向かいます。多くの石仏、石造物を巡りましたが、特に印象に残ったものを書いてみます。

⑮中田 移田八幡宮横 鎮魂の杜 寛明行者「南無遍照金剛」碑、神通川筋、布施川筋で見られますが、ここにも一基。由来は不詳だそうです。

他に「南無阿弥陀仏」と彫られた村相撲の力士の碑などがあります。

○中田 移田八幡宮 境内の広川社には古風な狛犬があり、境内に天満宮も。

左右の灯籠台座の独特な石積みは、亀か、獅子と邪鬼を現すのか？

⑯下麻生 高野山真言宗 宝泉寺 前面の三十三所観音と出山釈迦像（石仏では珍しいとか）、入口の阿弥陀上品下生像、青面金剛像も独特な姿。

⑰中田橋 左岸上流「水神」碑 明治二十九年当時の県知事の見事な揮毫と書体に忠実な彫りがすばらしいそうです。

⑱戸出大清水 真宗大谷派 永願寺 境内「西住碑」裏に梵字バンが彫られ台座の石積みに解説の文。この碑について本会の『研究紀要』第九号（二〇〇八）に、京田良志先生の先行研究を受けて、尾田武雄氏の文学者・郷土史家・石仏研究者としての論考がありますのでお読みください。

当日集合前に、私は砺波市三谷のもう一つの西住塚を訪ねて来ました。仏教史の不思議さと、この石碑（たち）の奇な運命が思われます。

⑲戸出町二丁目 金毘羅大権現文字碑 新しい石碑、旧碑は別に保管とか。

⑳戸出町二丁目 秋葉三尺坊文字碑 ㉑に對抗して建てられたものか。

㉒戸出町二丁目 曹洞宗 永安寺 厳格そうな若い坊さん。本堂内に名石工森川栄次郎（一八三九〜一九〇三）作の観音菩薩、不動明王、地藏菩薩石仏。

屋内で祀られて保存がよい。他に本堂に達磨像、金色の涅槃像など。境内に西国三十三所観音。第三十三番の脇侍に不動明王、毘沙門天も。

○戸出公園で昼食、古風な公園、消防碑、馬頭観音碑、力士碑、木曾義仲騎

繋ぎの松など、小さな神社の祭神は通行の人に聞いても不明でした。

⑧戸出町一丁目（東町）曹洞宗 太玄寺（無住）ガラス戸から本堂内を見ると摩利支天（武士、力士の守り）石仏、飛ぶような勢いの猪に乗る。境内に夕顔塚（俳人尾崎康工 一七〇一〜一七七九を偲ぶ）と地藏堂。

⑫戸出町四丁目 戸出大仏（阿弥陀如来）地元では「地藏様」と呼ばれるそう。井波石工による大きな寄せ石作り？この前で全員記念撮影。（左写真）

⑦荒見崎 共同墓地 半脚地藏 室町時代以前の作か、磐座だから「ご神体」だったのではないか。藪田石。白山↓石動山↓各地の五社神社等に影響したか？

両腕が欠落しており、戦争で人々を守るために刀で切り落とされたとはいわれ「身代わり地藏」と呼ばれる（宗派紛争の名残か）。

③関町 高野山真言宗 総持寺 外周に六十六部の石仏（現存三十八体）。その中で甲斐国身延山七面大明神（顔が七つもある）が特異。

⑤芳野 曹洞宗 繁久寺 回廊に五百羅漢像。門前に高岡新西国三十三観音の第三十三番十一面観音、芸子地藏、「浄誓寺廿六丁」の道標地藏。

○芳野 前田利長墓所 六mを超す大型の石灯籠。堀にはスイレンの花。花崗岩の笠付墓標は高さ八m。

なお「高岡新西国三十三観音霊場」の石

仏に各所で出会いましたが、これはネット

上でも見られるそうで、これらを巡るのも

楽しそうです。

参加者は全部で九人。毎回のことですが、

滝本やすし氏、尾田武雄氏の永年の調査・

研究による詳しい解説で、各石仏の由来な

どがよくわかりました。運転してくださった

方々のご苦勞様でした。爽やかな晴天に

恵まれ、皆様のおかげでいくらか視野が広

くなりました。ありがとうございました。



今秋発行予定 『北陸石仏の会研究紀要』 12号の御案内

目次

「妙成寺（羽咋市）の笏谷石製多層塔と笠塔婆」	福井県	三井紀生
「手向神社と末社の石仏」	石川県	滝本やすし
『金沢市の地藏尊』補遺」	石川県	清水邦彦
「富山の力石（2）」	三重県	高島慎助
「兵隊地藏」	富山県	尾田武雄
「立山信仰遺跡と石仏」	富山県	佐藤武彦
「大久保の方丈塚と佉羅陀山長慶寺の変遷」	富山県	平井一雄

解説

越前笏谷石研究の第一人者三井紀生氏が今回「妙成寺（羽咋市）の笏谷石製多層塔と笠塔婆」を発表していただいた。三井氏のご承知と存じますが福井新聞社から『越前笏谷 北前船による移出・各地の遺品』、『越前笏谷石 越前仏教文化の伝播を担う』、『越前笏谷石 よみがえる歴史と人間像』の著書がある。他に越前笏谷石による狛犬の調査研究にも優れた報告がある。今回の論文も氏の調査研究の一端を提示していただいた。

滝本やすし氏は石川県と富山県の境にある倶利伽羅峠にある神社の「手向神社と末社の石仏」論文を発表された。滝本氏は、福井県、石川県、富山県の北陸三県の石仏調査を隈なくされている。その実績は他を寄せ付けないものである。

清水邦彦氏は金沢大学教授で『中世曹洞宗における地藏信仰の受容』（岩田書院・平成十八年刊）を発表された地藏信仰の研究者である。今回『金沢市の地藏尊』補遺』を発表された。この『金沢市の地藏尊』（平成九年に財団法人横浜記念金沢の文化創生財団・金沢市教育委員会等）が発行したもので、それに漏れた地藏尊を発表された。

「富山の力石（2）」の高島慎助氏は四日市大学元教授で、全国の力石を調査されている。富山県の力石に関しては、当紀要や『富山民俗』で数度のわたり報告をしていただいている。著書には『富山の力石』（岩田書院・平成十九年刊）等多く三十数冊の及ぶ力石関係書がある。

富士山、白山と日本の三霊山と称される立山のガイドとして活躍される佐藤武彦氏は立山の石仏調査の長年の集大成「立山信仰遺跡と石仏」を発表された。これを機に真の「立山黒部の世界ブランド化」が進むことを期待している。

北陸石仏の会会長平井一雄氏は、自身の住む富山市の旧大沢野町の「長慶寺方丈塚」について、文献を整理して大久保の方丈塚と佉羅陀山長慶寺の変遷」を発表された。地元で根の生えた地道な調査研究には、いつも頭の下がる思いである。

最後に私が富山県内にある「兵隊地藏」を発表し、紙面を汚しているが、明治以降に戦争で亡くなった若い兵士への追悼と慰霊の心情に心が動かされ、書き残さなければならないと思った。

（尾田武雄）

北陸石仏の会 第59回例会
—旧金津町の石仏めぐり—
令和元年10月6日(日)

参加費：6000円（バス・資料代）

集合場所：①JR砺波駅南口……………7時00分

②JR金沢駅西口……………7時40分

③JR牛ノ谷駅……………8時20分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：令和元年9月20日(金)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定 全て福井県あわら市の旧金津町

◎宇根 畝畦寺跡／西国三十三ヶ所観音、泰澄大師

◎熊坂 路傍／太子堂

◎熊坂 路傍／十王、司命、奪衣婆、半跏地藏

◎滝 雨請堂／不動三尊、八大龍王

◎柿原 路傍／石廟、五輪塔、宝篋印塔、六地藏

◎山十楽 白山堂／本殿石祠[白山三所権現]

◎山十楽 神明宮／本殿石祠[雨宝童子]

◎花乃杜5丁目 千束一里塚／弥勒菩薩

◎花乃杜2丁目 河濯神社／狛犬

◎桑原 八幡神社／太子堂(再建)[聖徳太子]、阿弥陀如来、観音、男神像

◎桑原 路傍／水天

◎古屋石塚 春日神社／薬師如来、十一面観音、天満自在天神、不動明王、毘沙門天

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。

平成31年度の会費を未納の方は同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。